

1 単元名 生命の倫理（高校倫理新訂版 実教出版）

2 生徒と単元

(1) 生徒観

生徒1名の個別学習である。手話と音声を用いて学習を進めている。大学入試共通テストを1か月後に控え、大学進学を目指して日々学習に励んでおり学習意欲も高い。地理歴史科・公民科は興味のある好きな科目であり、時事問題にも関心が高く、毎朝新聞やテレビのニュースから情報を得るようにしている。分からないところや疑問に思ったこと、また納得のできないことなどに関しては積極的に質問したり、教師に意見を求めたりすることが多い。

倫理の授業は抽象的な表現が多いことから、解釈に時間を要したり、理解が難しかったりすることもあった。しかし、具体例を示したり身近なことに置き換えて提示したりすることで、自分なりに考え、理解を深めることができるようになってきた。生命倫理については、これまで自立活動などで医療技術の進歩による恩恵について考えたことはあっても、それに伴う倫理的な問題に深く取り組んだ経験は少ない。以前は、障害のことを取り扱おうと、自分の生い立ちや現状を振り返って悲観的になり涙することもあった。しかし現在は、様々な経験や学習が自信につながり、障害と向き合い、受け入れ、将来健聴者の中で生活していくという決意が生まれるなど、精神的な成長も見られる。

生徒名	A
平均聴力（右・左）dB	95・95
装用閾値（0.5・1・2kHz）dB	45・50・45

(2) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領倫理の内容とその取扱い（3）の「現代と倫理」のイ「現代の諸課題と倫理」の一つの取組として実施する。ここではア「現代に生きる人間の倫理」を踏まえ、学校や生徒の実態に応じて課題を選択し、探究する活動を通してその課題に取り組む態度を育て、現代社会が抱える諸課題についての解決を探るために必要な論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせることを目指す。

生命の倫理については、医学の進歩と技術の開発により、多くの人々に恩恵がもたらされた一方、生命の誕生や死にどこまで人間の技術的操作が介入してよいかという倫理的な問題が伴う。障害のある生徒にとっても医療技術の進歩と技術開発による恩恵のみならず、生命倫理が抱える様々な倫理的問題に取り組むことは意義深い。また、公民科の知識のみでは解決できない課題も多く、全人的な考え方が求められることから、自立活動を含む教科横断的な視点を生かして、主体的に課題解決に向かうことができる単元であると考えられる。

脳死の捉えや臓器移植の判断などは、法で整備されたとはいえ倫理的な賛否は存在し、また個人の選択や判断が求められる。本時で取り扱う臓器提供の判断には、その裏に「脳死は人の死か」「何をもって死と言えるか」という倫理的な課題が伴い、生徒の死生観が大きく関わる。生命工学や生命倫理の基本的な知識を生かして、自らの人生に関わることに自分ならどうするか、どう判断するかなどさまざまな意見に触れながら自分の考えを確かにもち、深めることができるテーマであると考え、設定した。

(3) 指導観

指導に当たっては、単元のねらいを達成し、生徒が自分の価値観を形成していく過程で、課題や疑問に対して自分なりに考察しながら課題解決に向かう力を育むために、次のような点に配慮して学習を進める。

- ・現代社会が抱える諸課題が自己の生き方に関わる課題と結び付けられるように、課題の倫理的な是非を自分や家族など身近な存在について考えるなど、自らの在り方生き方につながる内容まで発展させる。本時では、課題について架空の設定で考え、将来実際の家族など現実の環境下でも主体的に考え判断できるようにする。
- ・生徒が新たな問いをもちながら学習できるように、生徒の発言に対して懐疑的な視点や批判的思考力を意識した問い直しを取り入れる。
- ・視野を広げ、物事を柔軟に考える力を育むために、自分とは異なる意見の人の立場からも意見を求める。
- ・自らの考えの妥当性を確認したり、再考して深めたりできるように、課題に対する他の高校生や関係者の意見を準備し、間接的な対話として提示する。また、必要に応じて教師がその役割を担うことで、対話が充実するようにする。
- ・生徒の思考の変化を可視化できるように、心情メーターを活用し、その心情を自分の言葉で説明させる。
- ・タブレットや電子黒板を活用した他者との対話を中心とするため、思考の経緯が分かたり、学習内容を積み重ねたりできるように、電子ワークシートを活用する。
- ・聴覚障害による聞こえにくさへの配慮として、確実に伝え合うことができるように生徒や教師が説明する際は、モニターに文字を提示する。

3 高等部の「育てたい力」に対する働き掛け

(1) みきわめ、ふかめる力

- ・対話を通して、視野を広げ様々な角度からものごとを捉え、考えが深められるように、逆の立場や他の視点から問い直す。
- ・個別学習であっても、同年代の高校生の一般的に思考に触れ、自らの思考と比較できるように、より多くの考えや意見を提示する。
- ・主体的に課題解決に取り組めるように、前時までの振り返りや導入時の生徒との対話によって学習課題を一緒に設定したり、生徒にその設定を求めたりする。

(2) かかわり、つたえあう力

- ・自分の考えや気付いたことを具体的・簡潔にまとめることができるよう、考える時間を確保したり問い直しをしたりする。
- ・自分の思考を正確に表現できるように、書く活動・話す活動を設定する。

(3) ふりかえり、ととのえる力

- ・学習した内容から、思考を具体から抽象に発展させたり、抽象と具体を行き来したりできるように、自分の言葉でまとめさせたり、学習用語を別の言葉に置き換えて表現させたりするなど、様々な条件を付ける。

4 単元の目標と指導計画

(1) 単元の目標

- ①生命の誕生、老いや病、生と死の問題等を通して、生きることの意義について考える。(関・意・態)(思・判・表)
- ②生命倫理の諸問題が、倫理・宗教・哲学など様々な領域に広く関わることが分かり、家族や地域等の人、福祉や社会保障制度などの社会との関わりの中にあることに気付く。(思・判・表)
- ③人間の生命が、自然の生態系の中で、他の生命と相互依存関係において維持されていることが分かり、調和的な共存関係の大切さを理解する。(知・理)

(2) 指導計画と評価規準(6時間扱い)

時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (観点) (方法)
4 / 4 【本時】	生命倫理とは何か、またどのような倫理的問題を生み出したかを理解する。 クローンや再生医療など技術革新と倫理的問題について考える。 安楽死や尊厳死など生命の終わりへの介入の課題について考える。 脳死に伴う臓器提供の賛否について、他者の考えと比較しながら自分の考えを説明する。	医療の進歩や技術の開発による恩恵だけでなく、伴う倫理的問題についても、さまざまな視点で考えられるように、複数の立場に立って考える機会を設定する。 主観的な考えと客観的な考えができ、考えを深めることができるように、生徒の意見に逆説的な意見を提示し、対話を充実させる。	生命倫理に関する基本的な知識を身に付ける。 生命倫理が抱える倫理的な課題を、複数の視点から考えることができる。 様々な意見に触れ、自分の考えをもち、論理的に説明することができる。 (関・意・態)(思・判・表)(知・理) (発表・電子ワークシート)
2	人工授精や体外受精など生命の始まりへの介入の課題について考える。出生前診断の現状を調べる。 出生前診断など賛否が分かれる課題についてその是非を考える。		

5 本時の実際（本時 4 / 6）

(1) 本時の目標 脳死と臓器提供について、批判的思考力をはたらかせて再考し、自分の考えを説明する。

(2) 展開 (網掛け部は、育てたい力につながる教師の働き掛け)

時間	過程	学習活動 学習課題	○教師の働き掛け ●主な発問 ・自立活動的配慮等 評価規準〈方法〉
10分	つかむ	◇期待する生徒の姿・予想される生徒の姿 1 前時までの学習を振り返る。 ◇キーワードを穴埋めし、説明できる。 2 本時の適切な学習課題を考える。	○前時までの学習内容について、「脳死」「植物状態」「臓器移植法」の説明文の穴埋めを求め、振り返る。(PP資料、電子黒板) ○映画「人魚の眠る家」のポスターとあらすじを提示し、自分ならどうするか問い掛け、対話を通して本時の学習課題を決める。(PP資料、電子黒板)
30分	思考する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 家族が脳死と診断されたとき、臓器提供を希望するか。 </div> 3 課題に対して自分の考えを心情メーターで表し、説明する。 ①電子ワークシートに記入する。 ②説明する。 ・「希望しない」の割合が高い。 【希望する理由】 ・困っている人のためになるから。 ・子どもの一部がどこかで生き続けてくれるから。 【希望しない理由】 ・心臓は動いているから。 ・目を覚ますことがないことを分かっているけどどこかでもしかしたらと思ってしまうから。 4 他者の意見を参考に再考する。 ①本校高等部生と他校の高校生の心情メーターと意見を見る。 ・自分の意見の妥当性に安心したり、違う意見については驚いたりする。 ②他者の意見と比較し、共感できる意見と共感できない意見について理由を説明する。 ◇共感できる意見や共感できない意見を適切にピックアップし、その理由を述べる。 ③関係者(医療従事者、脳死と判断された子をもつ親、臓器提供を待つ人の家族など)の意見や感想などを見る。 ◇共感できる意見や共感できない意見を適切にピックアップし、その理由を述べる。	●自分の子ども(5歳)が脳死と診断されたとき、臓器提供を希望しますか。 ○見方考え方を深め、自分の意見を説明できるように、自分が親になった設定にする。また、自分の意見とは逆の立場からもその理由を考えるように伝える。 ○正解のない質問であるため、おおよその割合を示すことができるように心情メーターを活用する。 ・生徒が説明する際には、電子ワークシートを共有しモニターに提示する。その際発言のキーワードを板書に残す。(タブレット、電子黒板)
		5 改めて心情メーターを示して説明する。 ◇心情メーターが変化し、他者の意見を参考にした考えも加えて説明する。 ◇心情メーターは変わらないが、自分と違う立場の意見も尊重した説明ができる。 6 授業の感想を電子ワークシートに書き、発表する。	賛否が分かれる課題に対し、多面的・多角的に捉え、別の立場に立って意見や考えを説明できる。 〈方法〉発言、電子ワークシート ○自分の考えと比較し、再考に生かせるように予め用意した本校高等部生と他校の高校生の心情メーターと意見を提示する。(PC、タブレット) ●共感できる意見やできない意見はありますか。 ・生徒の発言に関わる他者の意見が分かるように、共有した資料をモニターに提示し、アンダーラインを引く。(電子黒板) ○自分の考えと比較し、再考に生かせるように関係者の意見や感想などを提示する。その際、関係者の立場や職業、年齢などにも着目するよう伝える。(PC、タブレット) ・参考になる意見や着目した点にアンダーラインを引くよう指示する。 ●気になる意見はありましたか。 ・生徒の発言に関わる他者の意見が分かるように、共有した資料をモニターに提示する。(電子黒板) ○最終的な心情の変化が分かるように心情メーターを提示し、説明を求める。(電子黒板、タブレット)
10分	まとめる		様々な意見を受け止め、再考し、その上で自分の考えを説明できる。 〈方法〉発言、電子ワークシート ○再度学習課題を押さえ、感想の発表を求める。また、今後実際に自分が判断を迫られた時に、本時の学習や自分の経験を生かせるように、映画に出てくる医師の発言を紹介し、授業のまとめとする。(PP資料、電子黒板)

(3) 教師側の評価

生徒が自分の考えを確かにするための手立て（同年代の意見の提示、再考のタイミング）は適切であったか。

(4) 心情メーターによる思考の変化

Q. 自分の娘（5歳）が脳死と診断されたとき、臓器提供を希望しますか。

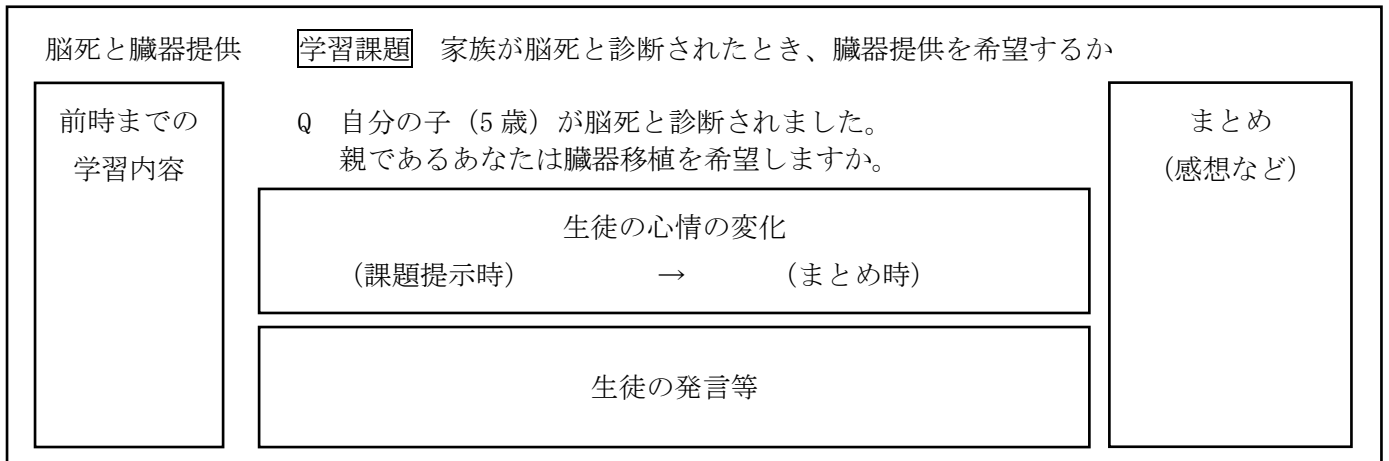
①導入終了時（課題提示後）

②まとめ時（他者の意見に触れ、再考した後）

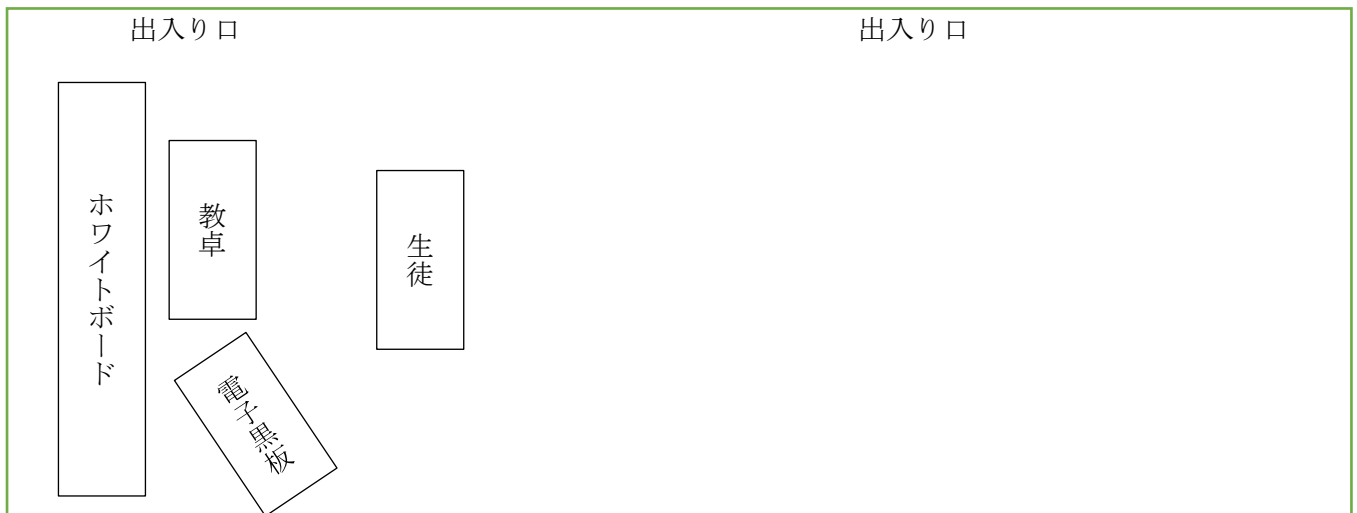
する	しない
----	-----

する	しない
----	-----

(5) 板書計画



6 教室配置図 視聴覚室



脳死と臓器移植

学習課題 脳死は人の死であるか

<考えよう>

Q 自分の子ども(5歳)が脳死と診断されました。親であるあなたは臓器移植を希望しますか。

心情メーター(自分の気持ちを表そう)

学習課題提示後

まとめ時



希望する理由

臓器移植を希望している人はたくさんいて、その人が生きられるのなら提供してもいいと考える。
とても悩むと思うが最後は希望する。提供しないでずっとその子のそばにいるよりも、提供して他の誰かが救われるのなら提供を希望する。

希望しない理由

まだ心臓が動いているのにその心臓を止めるのはその子にとっていいことかどうか判断できない。
自分の子どもの死を受け入れられない。
自分のだったら希望するが子どもとなるとなかなか決断しきれない。

<つかもう>

前時までの振り返り

脳死とは...

は動いているが、の機能は失われていて二度と元には戻らない状態のこと

前時までの振り返り

植物状態とは...

自ら呼吸することが可能。回復する可能性がある。

前時までの振り返り

臓器移植法(1997)

臓器移植の場合に限り、脳死は人の死と認定。本人の書面による意思表示とが必要。改正後、本人の意思が不明でも、のみで可能。年齢制限なし。親族への優先提供可能。

<まとめよう>

最後まで悩むと思うがやはり私は臓器提供を希望すると思う。自分の子どものおかげで、他の誰かが生きられるのならそれでいい。提供された人の中で自分の子どもが活着していると思うと少しは自分も救われるのかなと思う。自分の子どものことなら悩み続けることはできると思う。